

若人、青い空へ決意！



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、2月13日（月）、防衛大学校、航空学生（空）及び航空自衛隊、海上自衛隊の自衛官候補生として今春入校・入隊する高校生及び専門学校生7名を引率し、航空自衛隊浜松基地（浜松市）を見学した。

浜松基地は、パイロット及び整備員の養成や、早期警戒管制機による日本の空の警戒を任務としている。

当日は、T-4中等練習機及び主力戦闘機F-15、F-2の見学と体験喫食を行った。入隊を決意し参加した学生達は、説明を行った整備員の話に真剣に耳を傾け、航空機の整備というパイロットの命を預かる重要な任務に魅力を感じている様子であった。

学生は「戦闘機のパイロットになり、日本の空を守りたい」「実際の整備員から話を聞くことができ、とても参考になった。入隊したら整備員として頑張りたい」など、実際の職場に触れ、それぞれが具体的に将来の夢を描いたようであった。

静岡地本は、今後も入校・入隊を希望する若き精鋭のサポートに努め、防衛基盤の拡充を図っていく。

教職員が愛知県の駐屯地を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、2月17日（金）、県内の教職員の豊川駐屯地（愛知県豊川市）部隊見学を実施した。

この見学は、県内の高校等に勤務する教職員を対象に、自衛隊への理解促進と進路指導の参考にしてもらうため企画したもので、12名が参加した。

見学は、駐屯地の広報担当者による説明を受けながら、戦車や野戦特科砲、ヘリコプターといった展示用装備品を見た後、隊員食堂で体験喫食として、隊員が喫食する食事と同じご当地グルメの力しうどんを満喫した。

この他、駐屯地史料館においては、愛知県三河地域の歴史に関する資料や真珠湾攻撃の暗号文などの貴重な資料を、参加者は興味深く見学していた。

終了後、参加者からは「実際に車両やヘリ等の装備品を目の前で見学することができ、自衛隊の任務等に対する理解が深まった」「地域の歴史と自衛隊の深い関わりを知り、新しい一面を知ることが出来た」といった見学会の意義を感じられる感想が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような機会を活用し、学校関係者や学生等の若者に自衛隊への理解を深めてもらうよう努めていく。